

PCT/JP2004/015623

02.11.2004

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

REC'D 23 DEC 2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2004年 2月25日

出 願 番 号
Application Number: 特願2004-050240
[ST. 10/C]: [JP2004-050240]

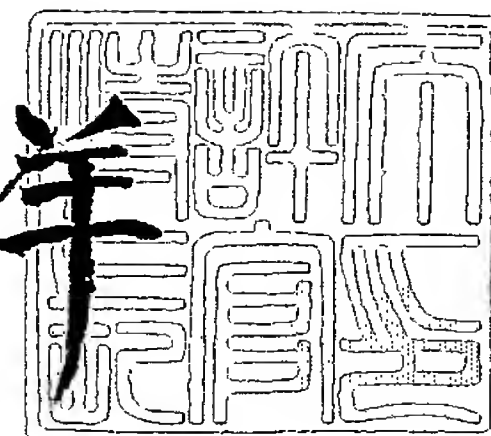
出 願 人
Applicant(s): 本田技研工業株式会社

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年12月13日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川 洋



出証番号 出証特2004-3113665

【書類名】 特許願
【整理番号】 H1034558
【提出日】 平成16年 2月25日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 B21K 21/16
B21J 5/06

【発明者】
【住所又は居所】 埼玉県狭山市狭山1丁目10番地1 ホンダエンジニアリング株式会社内
【氏名】 大沼 孝之

【発明者】
【住所又は居所】 埼玉県狭山市狭山1丁目10番地1 ホンダエンジニアリング株式会社内
【氏名】 小林 崇

【発明者】
【住所又は居所】 埼玉県狭山市狭山1丁目10番地1 ホンダエンジニアリング株式会社内
【氏名】 蛭間 英隆

【特許出願人】
【識別番号】 000005326
【氏名又は名称】 本田技研工業株式会社

【代理人】
【識別番号】 100085257
【弁理士】
【氏名又は名称】 小山 有

【選任した代理人】
【識別番号】 100103126
【弁理士】
【氏名又は名称】 片岡 修

【手数料の表示】
【予納台帳番号】 038807
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9722915
【包括委任状番号】 9304817

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

部材の内周部よりも大径の凹部を素材に成形し、この凹部の内周にアンダーカット部を形成し、このアンダーカット部が形成された素材の凹部に目的とする部材の内周部の径と等しい径のマンドレルを挿入し、このマンドレルを挿入した素材の外側からスウェーijing加工して前記アンダーカット部を残した状態で素材の前記凹部の内径をマンドレル外径まで縮小せしめるようにしたアンダーカット部を有する部材の成形方法であって、前記スウェーijing加工する前の素材の凹部内周または外周には凹部の底部から所定長さ範囲において余肉部が設けられていることを特徴とするアンダーカット部を有する部材の成形方法。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のアンダーカット部を有する部材の成形方法において、前記余肉部は鍛造成形によって前記凹部を成形する際に同時に成形することを特徴とするアンダーカット部を有する部材の成形方法。

【請求項 3】

請求項 1 または請求項 2 に記載のアンダーカット部を有する部材の成形方法において、前記部材は燃料噴射ノズルであることを特徴とするアンダーカット部を有する部材の成形方法。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 アンダーカット部を有する部材の成形方法

【技術分野】

【0 0 0 1】

本発明は、例えば燃料噴射ノズルのように内周部の一部にアンダーカット部を有する部材の成形方法に関する。

【背景技術】

【0 0 0 2】

燃料噴射ノズルの一般的な形状を図 6 に示す。燃料噴射ノズルは軸方向に内径 2 ～ 4 mm の中空穴が形成され、この中空穴の先端に燃料噴出口が、また中空穴の奥部に燃料溜りとなるアンダーカット部が形成されている。

【0 0 0 3】

部材の内側部にアンダーカット部を機械加工によって形成できるのは、せいぜい内周部の径が 1 0 mm までであり、燃料噴射ノズルのように内径 2 ～ 4 mm の中空穴の内周部にアンダーカット部を形成するには従来から電解加工によって形成している。

【0 0 0 4】

電解加工以外の方法としては、特許文献 1 ～ 3 に提案される方法がある。特許文献 1 には、素材をカップ状に成形し、更にこのカップ状素材の上端周縁を外側に膨出させ、外側からダイでしごき加工することで膨出した前記上端周縁を内側に張り出すようにし、結果的に素材内側にアンダーカット部が成形されることが開示されている。

【0 0 0 5】

特許文献 2 には、上端部の内径が棒状素材よりも大径となったダイに棒状素材を入れ、上方から棒状素材よりも小径のパンチによって棒状素材の上端を加圧し、素材の上端部をダイ形状に倣って拡張するとともに、小径のパンチが棒状素材の上端に進入する際にアンダーカット部が自動的に成形されることが開示されている。

【0 0 0 6】

特許文献 3 には、肩部を有するダイに当該肩部に当接する段部を有する素材をセットし、また素材に形成した袋穴の途中までマンドレルを挿入し、この状態でパンチによって素材を据え込み成形することでダイ上半部内の材料を変形せしめ、同時にダイ下半部では材料の径方向内側への流れを作らずにアンダーカット部とすることが開示されている。

【0 0 0 7】

【特許文献 1】 特開昭 5 6 - 5 9 5 5 2 号公報

【特許文献 2】 特開平 3 - 2 0 7 5 4 5 号公報

【特許文献 3】 特開平 8 - 9 0 1 4 0 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0 0 0 8】

電解加工による場合には、洗浄工程が必ず必要になるとともに、研磨などの廃液処理の問題が生じる。

一方、特許文献 1 ～ 3 にあっては、アンダーカット部を設ける箇所が限定されてしまう。つまり特許文献 1 では素材全体にアンダーカット部が形成され、特許文献 2 にあっては素材の上端部に限定され、特許文献 3 にあっては軸方向に形成した穴の奥部に限定される。

また、特許文献 1 ～ 3 のいずれも素材自体を屈曲させることでアンダーカット部とするため、アンダーカット部の形状を一定にすることが困難で、製品歩留りも悪い。

【0 0 0 9】

そこで、本発明者らは先に鍛造とスウェージング加工を応用した方法を提案（特願 2 0 0 3 - 4 2 4 9 4 5 号）している。この提案は、図 7 に示すように、鍛造（前方押出し又は後方押出し）によって素材に大径の凹部を形成し、この凹部の内周にアンダーカット部を形成した後、当該凹部に目的とする部材の内周部の径と等しい径のマンドレルを挿入し

て外側からスウェーピング加工し、その後、外面に研削加工などを施してノズル形状にする方法である。

【0 0 1 0】

この方法は、燃料噴射ノズルなどの成形には極めて有効であるが、成形比を大きくすると、スウェーピング加工の際に素材が長手方向に沿って開口方向に流動し、その結果、一部の製品には凹部の底部内周に欠肉が発生することがある。

【課題を解決するための手段】

【0 0 1 1】

上記課題を解決するため本発明に係る成形方法は、先ず素材に目的とする部材の内周部よりも大径の凹部を成形し、この凹部の内周にアンダーカット部を形成し、このアンダーカット部が形成された素材の凹部に目的とする部材の内周部の径と等しい径のマンドレルを挿入し、このマンドレルを挿入した素材の外側からスウェーピング加工して前記アンダーカット部を残した状態で素材の前記凹部の内径をマンドレル外径まで縮小せしめるようにしたアンダーカット部を有する部材の成形方法であって、前記スウェーピング加工する前の素材の凹部内周または外周に、凹部の底部から所定長さ範囲において余肉部を予め設けるようにした。

【0 0 1 2】

前記余肉部は鍛造成形によって前記凹部を成形する際に同時に成形するのが効率がよい。

【発明の効果】

【0 0 1 3】

本発明によれば、電解加工と比較して廃液が生じることがなく環境衛生上有利で、またアンダーカット部の形状も予め機械加工によって形成できるため正確で、また、最終形状として機械加工が困難な内径 1 0 mm 以下の袋穴などの内周部にもアンダーカット部を形成することがでる。特に余肉部を設けることでスウェーピング加工する際の材料不足を補うことができ、欠肉の発生を防止できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0 0 1 4】

以下に本発明の実施例を添付図面に基づいて説明する。図 1 は本発明に係る成形工程を説明したブロック図、図 2 及び図 3 は余肉部の成形工程を説明した図、図 4 は本発明に係る成形工程のうちスウェーピング加工に用いる装置の正面図、図 5 は本発明に係る成形工程のうちスウェーピング加工の内容を更に詳細に説明した図である。

【0 0 1 5】

先ず、ビレットを切断して図 1 (a) に示す棒状素材 1 を用意する。この棒状素材としては S C M 4 1 5 等が適当である。この後、図 1 (b) に示すように、冷間鍛造（前方押出し又は後方押出し）にて前記棒状素材 1 に凹部 2 を形成する。この凹部 2 は後に製品の内周部になる部分であるが、その径は製品の内周部よりも大きく、十分に機械加工が可能で大きな大きさ（1 0 mm 以上）とする。

【0 0 1 6】

前記冷間鍛造として図 2 に示すように前方押出しを行う場合には、凹部 2 の底部から所定長さ範囲の棒状素材 1 の外周に余肉部 1 a を設ける。この余肉部 1 a は後述するスウェーピング加工の際の材料流れを補うものであり、好ましい範囲（L）としては、スウェーピング加工の際のマンドレル径（ノズル内径）を（d）とした場合、 $2 d \leq L \leq 4 d$ である。

【0 0 1 7】

また冷間鍛造として図 3 に示すように後方押出しを行う場合には、凹部 2 の内周面であって底部から所定長さ範囲に余肉部 1 b を設ける。この余肉部 1 b についても好ましい範囲は $2 d \leq L \leq 4 d$ である。

余肉の発生は底部から、マンドレルと下孔とのクリアランス分の位置から発生するため、少なくともマンドレル径（d）の 2 倍の余肉部が無いと、発生位置より上方で材料不足

が生じるおそれがあり、また、4 倍を超えると、アンダーカット部へ材料の流入が起こり、アンダーカット部の形状が変形してしまうおそれがある。そこで、範囲を d の 2 ～ 4 倍とした。また余肉部の体積は、事前にテストして、発生した欠肉部の体積以上であればよい。

尚、実施例では冷間鍛造と同時に余肉部を成形する例を示したが、凹部 2 の成形とは別に余肉部を成形してもよい。

【0 0 1 8】

上記の如くして、棒状素材 1 を冷間鍛造したならば、図 1 (c) に示すように、凹部 2 にアンダーカット部 3 を形成し、続いて冷間でのスウェーijing加工によって、図 1 (d) に示すように、前記凹部 2 を内径 2 ～ 4 mm の袋穴 4 に成形し、更に旋削加工にて外周面を加工して図 1 (e) に示す製品（燃料噴射ノズル）を得る。

【0 0 1 9】

前記スウェーijing加工装置は図 4 に示すように、内側回転体 5 と外側回転体 6 とを備え、内側回転体 5 には 90° 離間して径方向に貫通穴 7 が形成され、各貫通穴 7 内には内側から順にスウェーijing金型 8 とストライカー 9 が摺動自在に嵌合している。一方、外側回転体 6 には周方向に等間隔で 1 2 本のピン 1 0 が回転自在に保持されている。

【0 0 2 0】

以上のスウェーijing加工装置において、内側回転体 5 を時計廻りに、外側回転体 6 を反時計廻りに回転せしめると、遠心力によって内側回転体 5 に保持されているスウェーijing金型 8 とストライカー 9 は径方向外側に付勢されるが、外側には外側回転体 6 が回転しており、この外側回転体 6 にはピン 1 0 が保持されており、このピン 1 0 は外側回転体 6 よりもその一部が内側に突出しているので、ピン 1 0 がストライカー 9 の外端部を通過する度にストライカー 9 を径方向内方に押し込み、これに連動してスウェーijing金型 8 も径方向内方に押し込まれ、4 つのスウェーijing金型 8 の中心にセットされた素材の表面を数千回／分の速度で叩きスウェーijing加工を行う。

【0 0 2 1】

上記のスウェーijing加工装置を用いて凹部 2 とアンダーカット部 3 を形成した素材 1 を成形するには、先ず図 5 (a) に示すように、クランプ 1 1 で素材 1 を把持するとともに、素材 1 の凹部 2 内にマンドレル 1 2 を挿入する。このマンドレル 1 2 の外径は目的とする製品（燃料噴射ノズル）の袋穴の内径と等しいものを用いる。

【0 0 2 2】

そして、図 5 (b) に示すように、マンドレル 1 2 で素材 1 をストッパ 1 3 に当接する位置まで押し込み、前記したようにスウェーijing金型 8 によって素材 1 の外面を叩いてスウェーijing加工を施す。このスウェーijing加工により凹部 2 の内径はマンドレル 1 2 の外径まで縮径されるが、アンダーカット部 3 は残る。このとき、素材 1 の材料は軸方向に沿って開口方向に移動するため凹部 2 の底部付近では材料が不足するが、その不足分は余肉部 1 a または 1 b から補われる。

【0 0 2 3】

尚、素材の加工方法としては図示するような半径方向に工具を移動するプランジ加工に限らず、素材を軸方向に移動させるインフィード加工でもよい。

【0 0 2 4】

この後、旋削加工を施して製品（燃料噴射ノズル）の外径形状とするのであるが、前記スウェーijing金型 8 の先端形状を所定の形状にしておくことで、旋削加工を省略することができる。

【産業上の利用可能性】

【0 0 2 5】

本発明に係るアンダーカット部を有する部材の成形方法は、例えば自動車用エンジンに組み込まれる燃料噴射ノズルの製造に適用できる。

【図面の簡単な説明】

【0 0 2 6】

- 【図 1】 本発明に係る成形工程を説明したブロック図
- 【図 2】 余肉部の成形工程を説明した図
- 【図 3】 余肉部の成形工程を説明した図
- 【図 4】 本発明に係る成形工程のうちスウェーピング加工に用いる装置の正面図
- 【図 5】 本発明に係る成形工程のうちスウェーピング加工の内容を更に詳細に説明した図
- 【図 6】 燃料噴射ノズルの断面図
- 【図 7】 先に本発明者らが提案した方法を説明した図

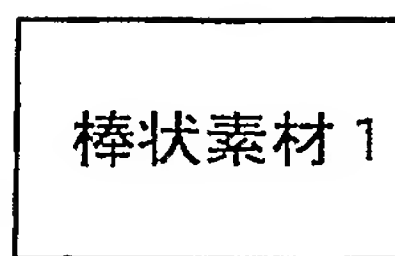
【符号の説明】

【 0 0 2 7 】

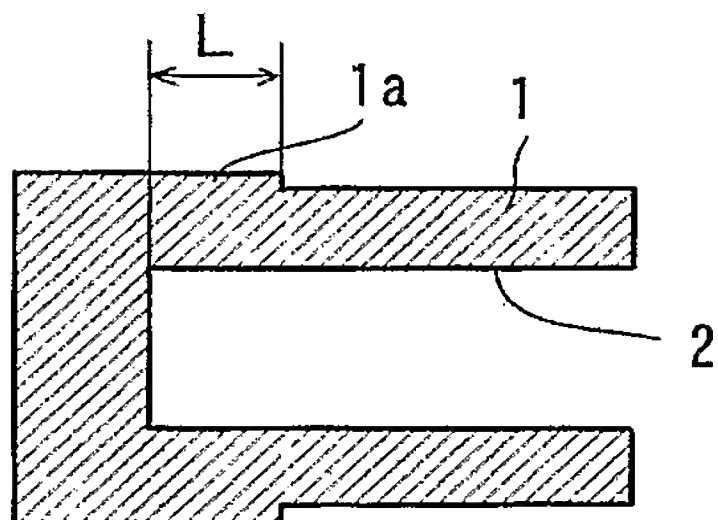
1 …棒状素材、 2 …凹部、 3 …アンダーカット部、 4 …袋穴、 5 …内側回転体、 6 …外側回転体、 7 …貫通穴、 8 …スウェーピング金型、 9 …ストライカー、 1 0 …ピン、 1 1 …クランパ、 1 2 …マンドレル、 1 3 …ストッパ 1 3。

【書類名】 図面
【図 1】

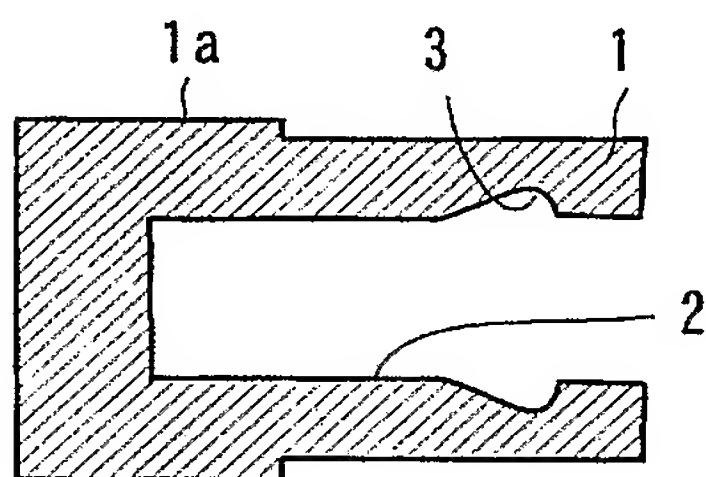
(a)



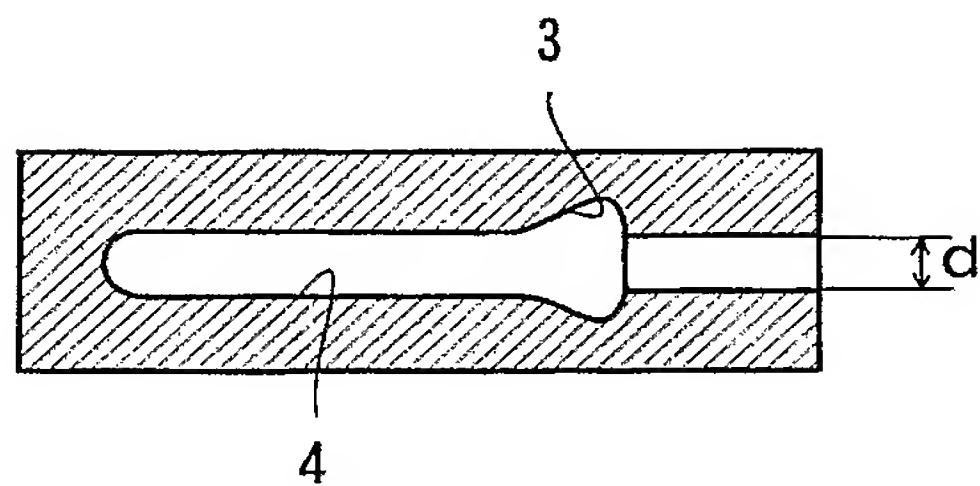
(b)



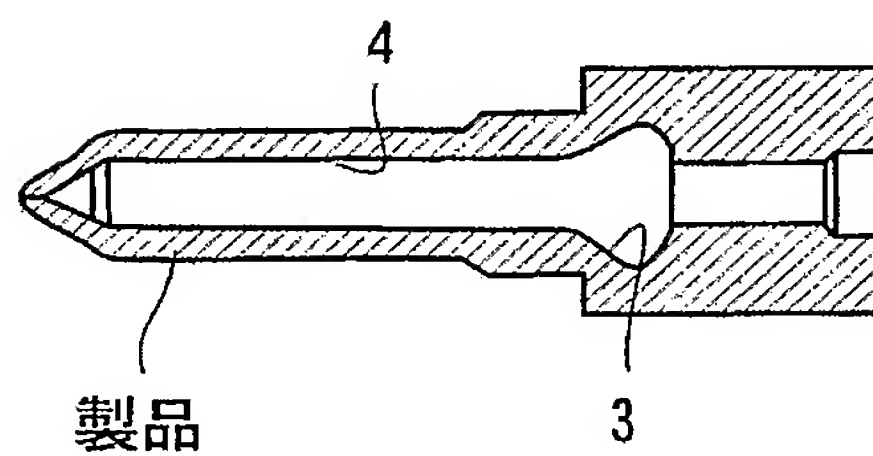
(c)



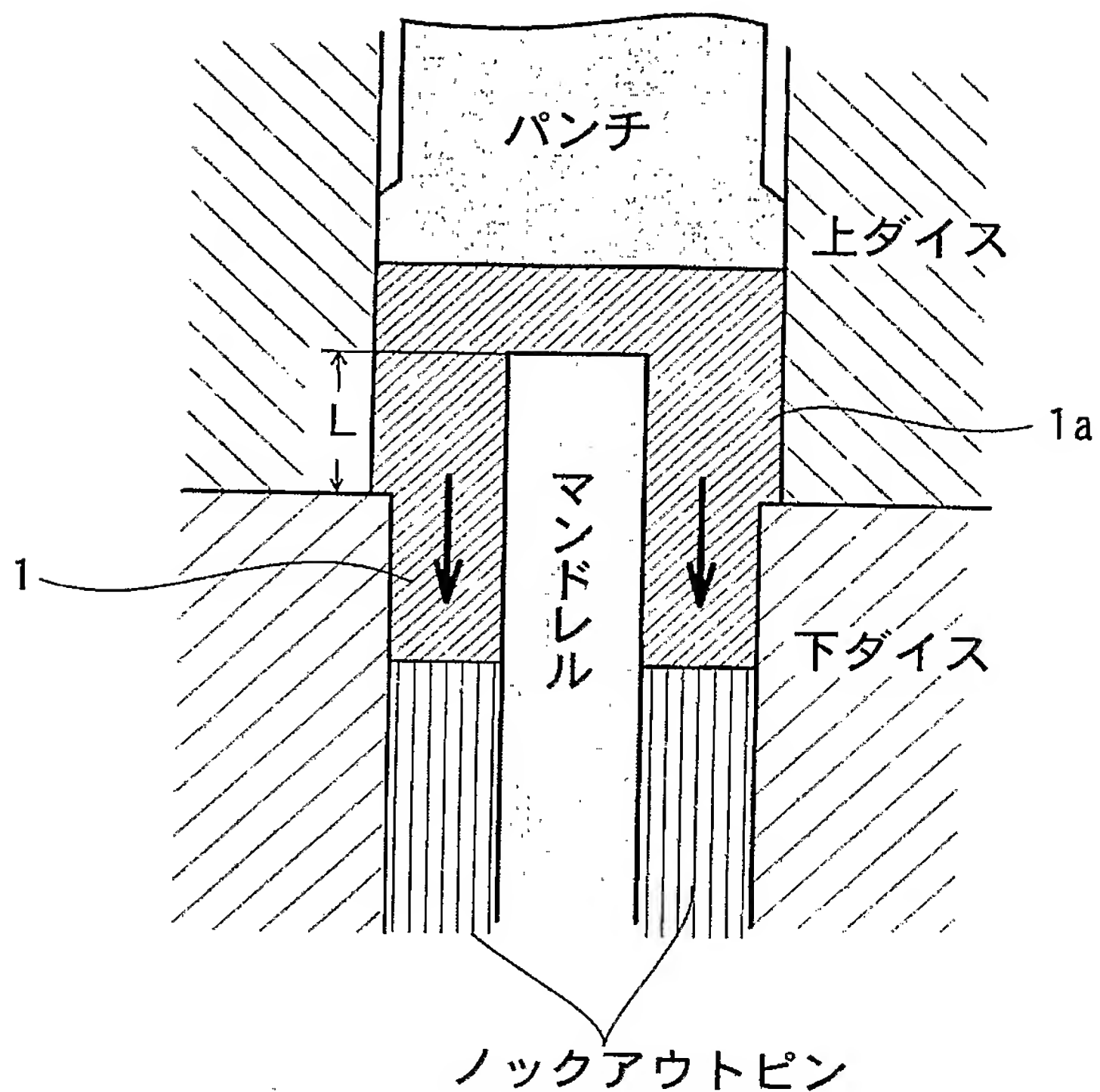
(d)



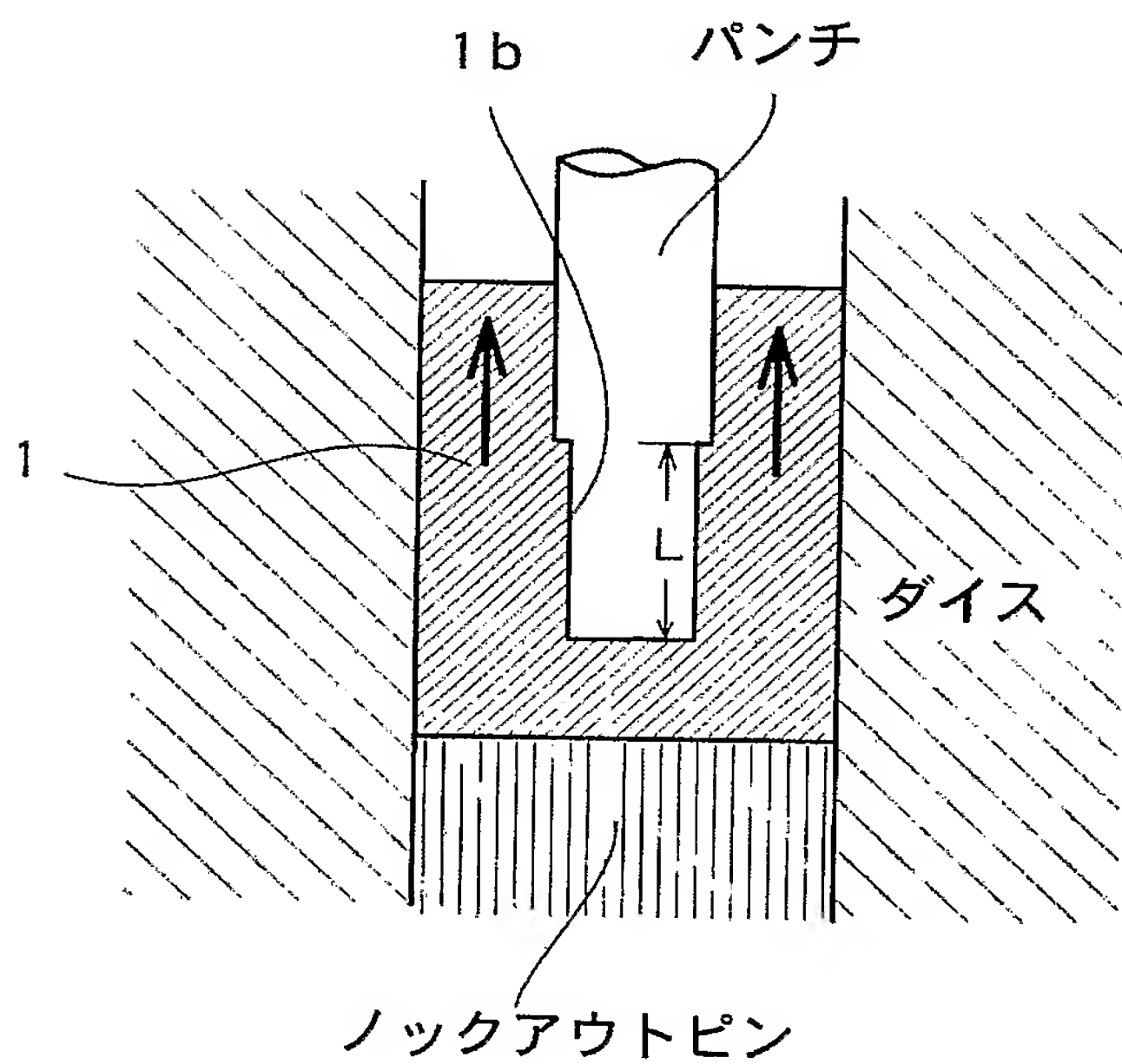
(e)



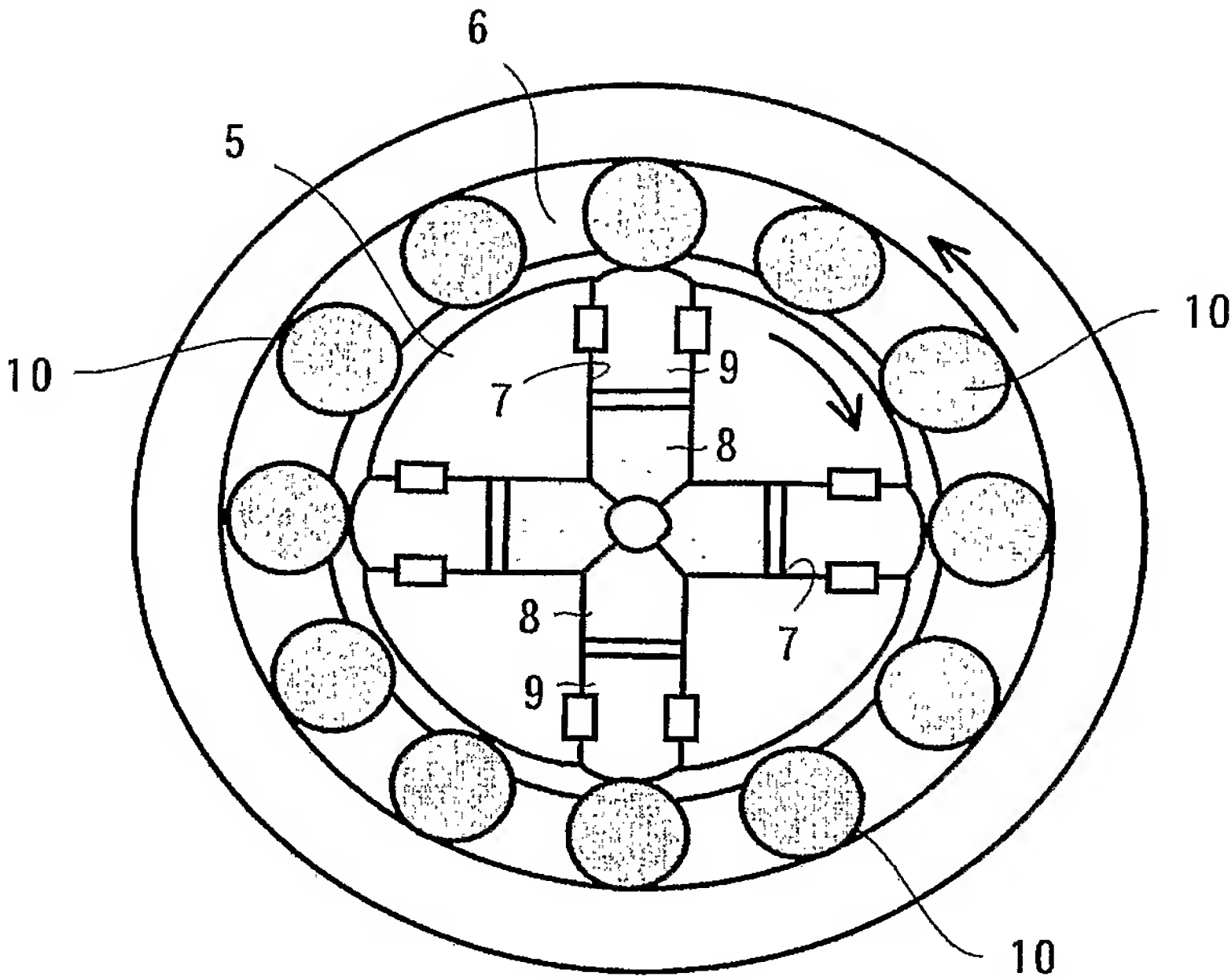
【図 2】



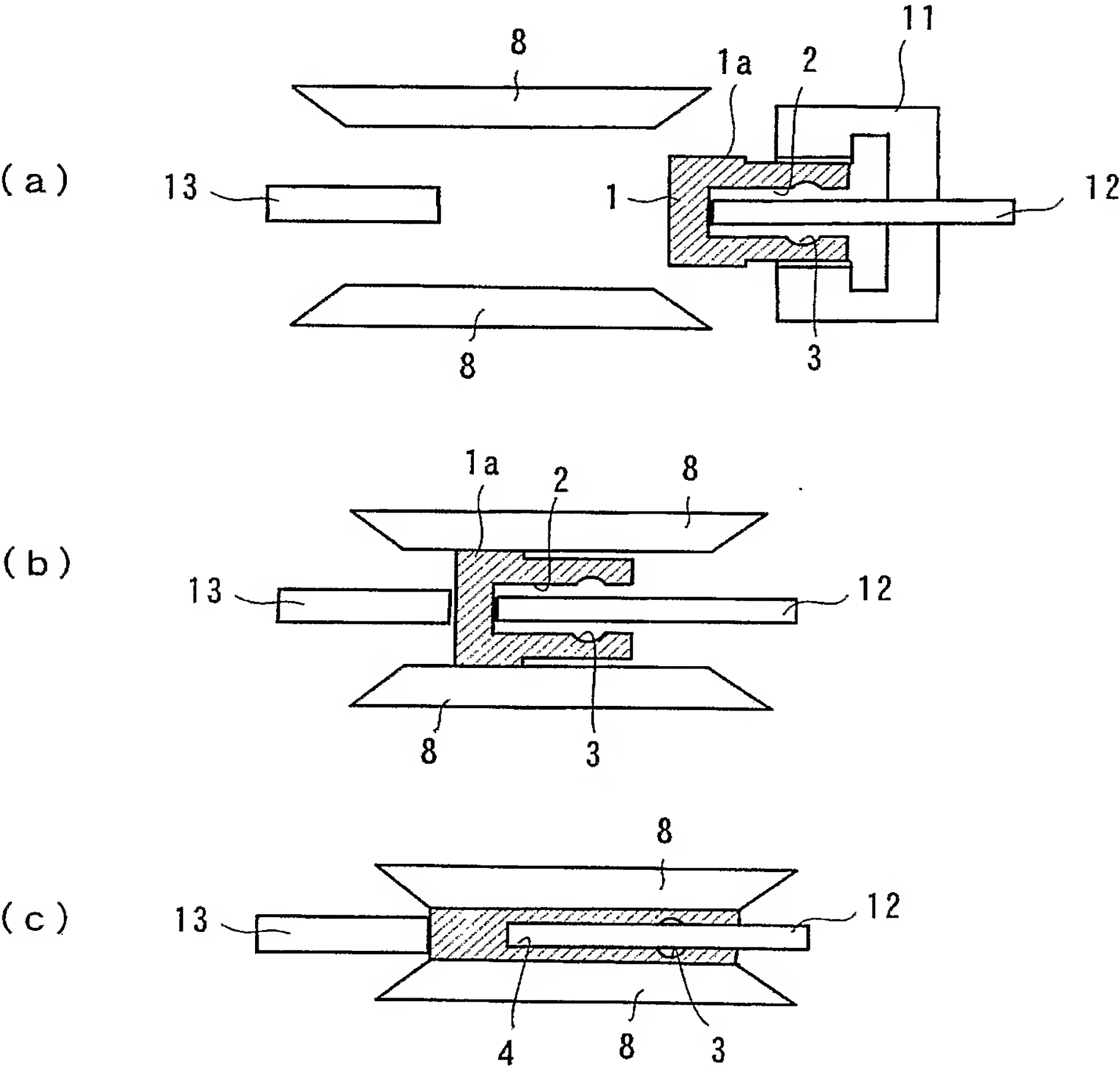
【図 3】



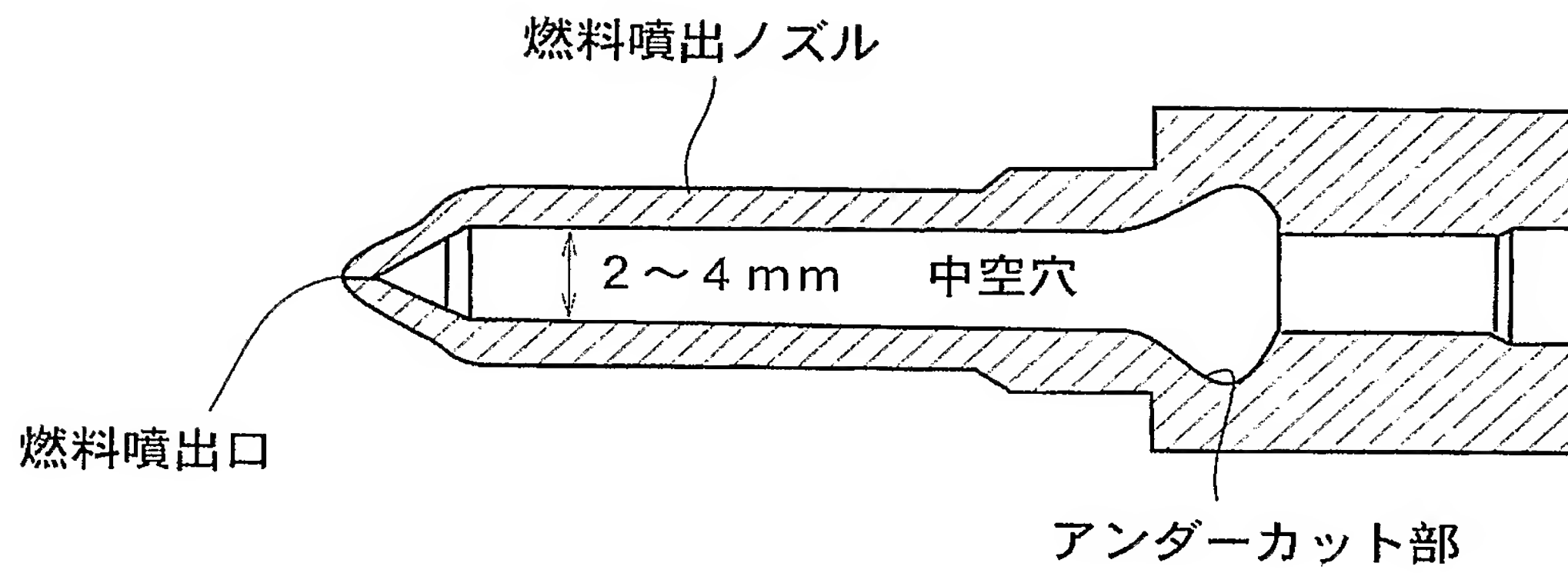
【図 4】



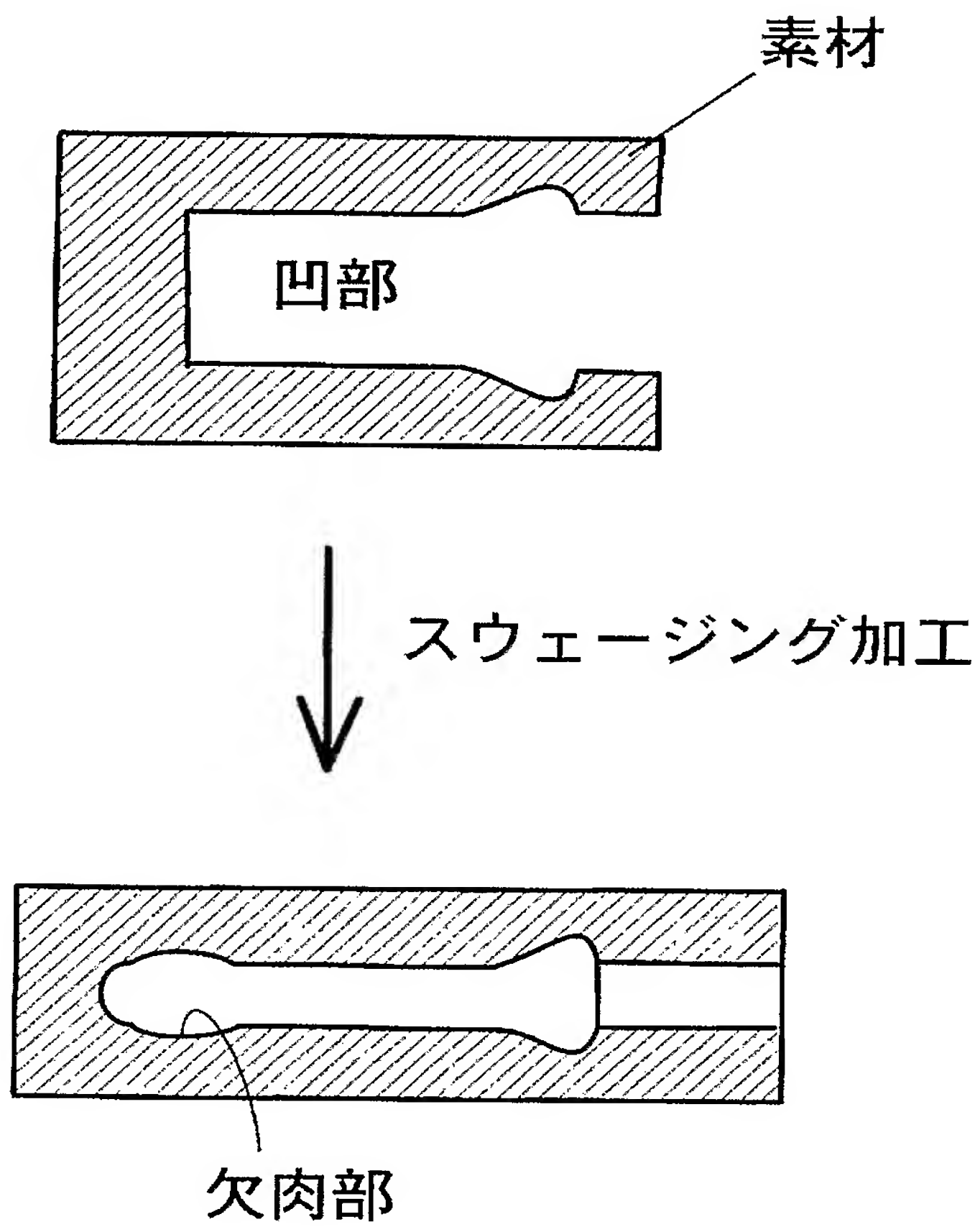
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 内周部にアンダーカット部を有する部材を欠肉を生じることなく簡単に成形できる方法を提供する。

【解決手段】 スウェーピング加工で凹部 2 とアンダーカット部 3 を形成した素材 1 を成形するには、クランプ 1 1 で素材 1 を把持するとともに、凹部 2 内にマンドレル 1 2 を挿入する。このマンドレル 1 2 の外径は目的とする製品の袋穴の内径と等しいものを用いる。そして、マンドレル 1 2 で素材 1 をストッパ 1 3 に当接する位置まで押し込み、スウェーピング金型 8 によって素材 1 の外面を叩いてスウェーピング加工を施す。このスウェーピング加工により凹部 2 の内径はマンドレル 1 2 の外径まで縮径されるが、アンダーカット部 3 は残る。このとき、素材 1 の材料は軸方向に沿って開口方向に移動するため凹部 2 の底部付近では材料が不足するが、その不足分は余肉部 1 a または 1 b から補われる。

【選択図】 図 5

特願 2 0 0 4 - 0 5 0 2 4 0

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 5 3 2 6]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 9 月 6 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号

氏 名

本田技研工業株式会社